

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000049		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)		
所在地	京都府京都市西京区大枝東長町1-68		
自己評価作成日	平成26年11月10日	評価結果市町村受理日	平成27年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kanji=true&JigyosyoCd=2694000049-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家グループホーム京都洛西ではご入居者様に自宅にいらっしゃった時のような環境で過ごして頂き、出来ることを妨げず、いつまでもやりたいことが出来るよう支援しています。ホームの理念として『地域とのつながりをふかめる。』を掲げています。入居者様の生活を支えることを一番に考えて地域と共に生きる。ホームに閉じこもりの支援にならないよう、地域とのつながりを密に行い、日々の生活支援としています。職員同士も仲が良く、お互いに助け合いながら、入居者様の事を第一に考え入居者様の喜びを職員の喜びとして生活支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は法人理念の下、独自のビジョンとして今期「地域とのつながりを深める」と掲げ、ビジョンを実現するためにさらに具体的に項目を掲げて日々の支援を行っています。介護計画においては週1回モニタリングを行い、思いや日々の支援で気付いたことをまとめ、総括し、一人ひとりのニーズを見出し現状に合った計画を作成しています。また地域においても社会福祉協議会のイベントへ参加したり、小学校の運動会を見に行ったり、中学生の福祉体験や劇団等のボランティアの受け入れの他、地域の方に柿を頂いたり、餅つきの際には杵と臼をかりするなど交流を図っています。利用者は明るい雰囲気の中、食事やおやつ作り等出来る事に取り組み、リビングや通路の奥にあるソファでみんなやひとりで思い思いに過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼にて運営理念・ビジョンを唱和し共有して日々のケアに取り組んでおります。	職員との面談を通じて管理者が作成した事業所のビジョンを事務所内に掲示し、ビジョン実現に向けて挨拶等の基本的なことから説明しています。全体会議や各フロア会議でビジョンについて話し合い、年度末には達成具合を見てビジョンを継続するか、変更するかを決めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、地域の学校の校外学習の受け入れる等地域と関わりを持っています。	自治会に加入しており、自治会経由で社会福祉協議会のイベントや老人会等に参加しています。地域や小学校の運動会への声掛けがあり観に行ったり、中学生の福祉体験や劇団やハーモニカ等のボランティアを受け入れています。散歩や買物の際には挨拶をし、柿のお裾分けや餅つきの際の道具をかりるなど交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム見学に来られた時や、お問い合わせ等の電話、学生の受け入れ等 希望時には相談にのっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会会長、社会福祉協議会、地域包括、他福祉施設等様々な方にご出席いただき、ホームでの取り組み等話し合いサービスの向上につなげてます。	会議は2か月に1回家族、職員、自治会長、社会福祉協議会会長、地域包括支援センター職員、他事業所の職員等の参加の下開催し、活動や現状報告、参加者から情報を得たり意見交換を行っています。ボランティアの空き情報や動物セラピーの実施を計画する等事業所の運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議後は必ず、議事録を洛西支所に提出に行き、疑問点等は相談しています。	わからない事があれば区の支所や市役所へ電話で問い合わせたり、窓口に直接訪問し担当者にホームの現状を伝え相談しています。また研修の案内をもらい参加する事もあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や指導を行い、スタッフに周知し、取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについての研修はフロア会議後にリーダー中心に日々のケアの中で拘束につながる具体例を出して話し合っています。職員間でも対応に問題があれば注意し合っています。玄関の鍵は外からは開きますが中からは開けにくい状態になっています。外出希望の利用者には一緒に散歩したり玄関に出て椅子に座って外気浴をして気分転換をしてもらっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や指導を行い、また日々のケアの中でスタッフ同士注意しながら虐待防止に勤めています。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	青年後見制度を受けておられる方がおられ、運営推進会議に司法書士の方が参加して下さり、内容についてもまなんでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書を一字一句読み合わせ、都度疑問あれば答えるようにして、ご家族様の理解・納得をえています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、家族アンケートを実施し要望・意見に対し取り組みを行い、運営に反映させている。	利用者からの思いや希望は日々の関わりの中で直接職員が聞いて記録しています。家族からは運営推進会議や来訪時、電話等で意見を聞いています。家族から通院の際の意見があり対応を検討したり、外出の機会についての意見では散歩を含め利用者の様子を詳しくお便りにして伝えていきます。また法人でアンケートを家族へ実施し、結果をホーム玄関に掲示しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のケアの中での職員の意見やフロアごとのカンファレンス等で提案や意見を聞き運営に反映させている。	月1回の全体会議、フロア会議で職員から意見を聞いたり、出勤時やその他気になる職員がいればその都度管理者は声を掛けてコミュニケーションを取り、職員がやりたい事を大切にしています。職員からの意見により利用者の状態に合わせてユニット毎で勤務時間を変えてケアにあたっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、職員アンケートや表彰等様々なコンテストを行い職員のモチベーションアップに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関西既存のホーム内で各力量に合わせ計画を立て研修を行ったり外部での研修にも参加をうながしている。様々な資格習得支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の他事業所への挨拶回りや、イベントへの参加などでネットワークを築いたり推進会議でも参加いただいたりして交流し情報交換している。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時、希望や不安などを聞かせていただき、信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時、ご入居者様と共に家族様の不安や希望をできるだけお伺いし、信頼関係構築につとめています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様と入居前にしっかりと話し合いを行い、ご希望に対してその方の為にならないと判断した場合は、相談し他サービスについても話し合いを行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を活かしできないことのみ お手伝いさせて頂くようにしている。また、様々なことを教えて頂いたりして相互関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か困りごとや助けて欲しい事等あれば、家族様に連絡し相談させて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様との話の中で出てきたことを家族様に伝えて支援いただいています。	近所に住んでいた人や友人等の来訪があり、事業所内の好きな場所で寛いで過ごしてもらっています。家族の協力を得て馴染みの美容院への訪問や外食、外泊、冠婚葬祭の際には準備を支援する等これまでの馴染みの人との関係を継続する支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに家事等助けあったり状況に応じて入居者同士がかかわりを持てるよう支援している。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族様と連絡を取り、イベント等に案内している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、ホーム独自のアセスメントを用い、本人の意向の把握に努めている。	入居前の見学表や入居時のアセスメント表に利用者の身体状態を記入し、私の姿気持ちシートに本人や家族から意向や暮らしぶりを聞きとっています。日々の支援の中での様子からも思いを汲み取り、カンファレンス等職員間で話し合いながら本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを用いますが、生活されている中で気付いたことや、話されたことや家族様に伺ったことなどを、追記し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を送っている中で、常に状態把握に努め申し送りも行い、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎回 担当職員がモニタリングを行い、サービスy担当者会議を行い、介護計画を作成している。	利用者一人ひとりのニーズを見出し6か月毎の長期目標と3か月毎の短期目標を立てた介護計画を作成しています。短期目標を基に週1回程度居室担当やケアマネジャーがモニタリングを実施し、日々の支援で気付いた事や経過観察を表にまとめ、計画の総括、評価を行い、サービス担当者会議で家族や職員から意見を聞き、計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護計画を作成し、申し送りを詳細に行い、情報共有しながら実践したり、介護企画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者が、望むことをできるだけ支援できるよう取り組んでいる。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に入会したことで 地域の様々な取組などの情報があり 参加することができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームには、毎週 フロアには月2回往診医に来ていただき、緊急時も24時間医師の指示を受けることが出来ている。また、週2日看護師が勤務し、受診介助や医療連携を行っている。	入居時にこれまでのかかりつけ医の継続が可能な事を伝え選択してもらっています。継続の場合は家族の協力を得ており、利用者の状況を書面を作成したり口頭で家族に説明し、報告をもらっています。事業所の協力医による往診が月に2回あり事前にファックスで情報を送っています。協力医が来訪時には事業所の看護師や薬剤師も同席し連携を取っています。また希望により口腔ケアやマッサージも受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携記録に看護師が情報や往診内容をきろくし、職員も気付いたことを記録したり口頭で伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換や、相談に努めている。緊急時は往診医が病院への働きかけもして下さっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様との入居契約時、重度化や終末に向けた方針の話合いを行っている。	入居時に看取りについて常時医療が必要な場合以外は家族の協力等条件がそろえば対応可能である事を説明しています。これまでに看取りの経験がありませんが重度化した際にはその都度家族や医師から意見を聞き方針を決定します。今後必要な体制は会議や研修を行い整える予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法やAED講習を受講しており、新人職員には消防署の救急救命講習受講をうながしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練にて訓練を受けている。災害時の自治会との連携も取れている。	年に2回いずれも消防署立ち会いの下で避難誘導や通報、消火器を使つての訓練を実施しています。訓練を実施する際には近隣へ告知し参加を呼びかけています。自治会を通じて協力も呼び掛けています。また食料や水等の備蓄をしています。	

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で注意しながら、人権の尊重や自尊心に配慮した言葉かけを行っている。	会議の際にプライバシーについて勉強会を年に1、2度開催し学ぶ機会を持っています。排泄時の声掛けの声の大きさや見守りの方法に注意し、命令口調にならないよう自分自身に置き換え気を付けるように管理者から話をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの中で、入居者様本人がしたいことが実施出来るように、随時声掛け等の働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが居室で過ごしたり、リビングで、テレビを見たり、歌を唄ったり、家事をしたりと、本人のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には、どの服を着られるのかうかがったり、装飾品のお好きな方は、毎日身に着けておられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり、混ぜたり、食卓の準備や後片づけなどもして下さり、おやつ作りも声掛けしています。	栄養士が立てた献立を基に調理は厨房を請け負う業者が行っていますが利用者の希望を聞いてメニューを変更する事もあります。割烹着を着て野菜の下拵えや後片付けを行う利用者もおり、下膳やお盆拭きなど出来る事に携わってもらい、職員も一緒に同じ食事をしています。また外食に出掛けたり事業所の駐車場でバーベキューもしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量などを記録に残し、その方の状況に応じて食事量など調整し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行ってもらえるよう声掛けを行い、実施頂いている。週1回の歯科往診にて口腔内状態も診ていただいています。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排せつパターンを把握し、表情や仕草などを観察し自尊心に配慮しながら声掛け行い、トイレ誘導することで自立に向けた支援を行っている。	利用者全員24時間の排泄チェック表でパターンを把握し個々に応じて声掛け、誘導をしています。座位を取れる利用者はトイレでの排泄を基本にしています。利用者の様子やしぐさで排泄の希望を汲み取り、声掛けをすることで失敗の減少につながっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを摂取していただいたり、入居者様によっては食後の運動や、その方にとって便秘に効くと思っておられるものを提供したりと、個々に応じた予防にとりくんでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は午後からの入浴であるが、希望に合わせて対応している。	週2回、10時半から夕食前までの時間帯を基本に入浴を支援しています。希望があれば毎日や夜間の入浴も可能です。入浴拒否の利用者には時間や日を変えて声を掛けることで入浴につながっています。好みのシャンプーや季節の風呂、入浴剤を使い楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれに合わせて過ごして頂いており、夜、入眠しにくい時は就寝前に温かい飲み物等を提供し安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が、常に薬の内容を把握し、状態を見ながら往診医・看護師と相談し指示を受け服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意な事、好きな事を個別にたのしまれるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はできるだけ希望に添えるよう支援しています。また、家族様にも相談させていただいています。	玄関前に椅子を新しく設置し外気浴を楽しんだり、近所の無人スタンドへ買い物に行ったり、月2回のドライブや近くのショッピングモールへ出掛ける等外出の支援をしています。利用者の希望による墓参りや自宅を見に行く等の外出は家族の協力の下実施しています。	今後個別の外出を検討しています。利用者の個々の希望に応じた外出をより多く実施できるよう期待しています。

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方はやお金を持っていないと不安に思われる方は、ご本人で管理されています。(家族様承諾済)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、共用部分の飾りつけ等季節感を感じられるものになっている。加湿器をソリューションウォーターを使用しています。テレビの音量にも気を付け定期的窓を開け換気にも気づかっています。	リビングは季節感出るように季節の貼り絵を掲示したり、クリスマスツリーなど季節毎の飾りをしています。廊下の奥にもソファースペースを作りひとりになれる場所を確保しています。エアコンで室温に配慮し、感染予防の機能のある加湿器を配置し快適な空間を維持しています。毎朝職員が行う掃除には利用者も出来る範囲で一緒に行い清潔を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、ひとりになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、一人になれる場所が作りにくいですが、気の合った方と過ごされることが多くあります。廊下の奥にはソファを設置しており一人になれる空間となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使い慣れたものや、仏壇、アルバム等を持ち込まれ自宅と似た環境出暮らして頂けるようにしています。	大切にしている仏壇や日本人形、写真、アルバム、使い慣れた椅子や棚、テレビ等を自由に持ち込んでもらい居心地良い環境づくりに努めています。また布団で休まれる利用者には畳を敷いています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力歩行でき、その時の状態を判断できる方は、状態に合わせて杖を持ったり、手すりを持ったりして歩行されています。判断が困難な方は、職員が日々の状態を観察しながら、都度声掛けを行い、自立した生活を送れるようしえんしています。		